⑩日本国特許庁(JP)

の実用新案出願公告

⑫実用新案公報(Y2)

昭63-47229

Mint Cl.4

識別記号

厅内整理番号

四四公告 昭和63年(1988)12月6日

E 04 F 13/14 13/08

102

D-7130-2E L-7130-2E W-7130-2E

(全4頁)

建築用板 図考案の名称

> 昭57-115793 の実 頣

開 昭59-19839 ❸公

昭57(1982)7月29日 田の

43昭59(1984)2月7日

707考 客 者 鉄 柀 郁 夫

大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 久保田鉄工株

式会社内

切出 願 人 久保田鉄工株式会社 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

弁理士 清 水 実 四代 理 人

伊藤 哲 夫 審 査 官

特開 昭57-61152 (JP, A) 网络考文献

実開 昭55-103333(JP,U)

1

砂実用新案登録請求の範囲

巾方向一端より他端側へ肉厚がテーパ状に拡大 する断面形状とされた無機質製板体の巾方向薄肉 側端面には突条が、又厚肉側端面には前配突条と 本実状の雌雄関係をなす凹溝が形成され、一方、5 長さ方向一端の表面側部に断面L字状の切り欠き が設けられ、長さ方向の他端部には前記L字状の 切り欠きに合抉状に嵌合する庇伏延出部が形成さ れ、前配凹溝及び前配切り欠き部には、弾性を有 築用板。

考案の詳細な説明

この考案は建築用板に関し、詳しくは、主とし て外装壁板として使用される無機質製建築用板に 関する。

従来、無機質材料の押出成形によって、内部に 長さ方向に連続する中空孔を有した建築用板が 種々提案され、かつ実施されている。

この種建築用板は、巾方向両端面に本実状の雌 雄嵌合片を板体内部の中空孔と同時に成形するこ 20 一皿線断面図である。 とが可能であるから、接合して用いる場合の嵌合 が確実に行える、又内部が中空であるから軽量で あり断熱性にも富むといつた利点を有するが、長 さ方向端部は、一般に切り離し状とされているの で、長さ方向への接続には単なる突き合わせ接合 25 テーパ状に拡大する断面形状とされた無機質製板 となり、防水の必要がある場合は別にジョイナー 材を用いる必要があつて施工が面倒となり、又、

ジョイナー材を使用しても尚充分な防水性を得ら れないといつた問題があつた。

2

この考案は上記問題点に鑑み、巾方向端の接合 のみならず長さ方向端における接合も、特にジョ イナー材を使用することなく、防水性も良好に逸 成し得る強築用板を提供することを目的としてな されたものであつて、巾方向一端より他端側へ肉 厚がテーパ状に拡大する断面形状とされた無機質 製板体の巾方向薄肉側端面には突条が、又厚肉側 する防水材が設けられて成ることを特徴とする建 10 端面には前配突条と本実状の雌雄関係をなす凹溝 が形成され、一方、長さ方向一端の表面側部に断 面L字状の切り欠きが設けられ、長さ方向の他端 部には前記し字状の切り欠きに合抉状に嵌合する 庇状延出部が形成され、前記凹溝及び前記切り欠 15 き部には、弾性を有する防水材が設けられて成る ことを特徴とするものである。

以下、この考案を実施例により説明する。

第1図はこの考案の実施例の斜視図、第2図は 使用状態を示す要部斜視図、第3図は第2図のⅢ

この考案の建築用板Aは、主として無機質材料 の押出成形によつて成形され、長さ方向(矢印 L) に連続する中空孔 1…1を有し、かつ、巾方 向(矢印B)一端2Aより他端側2Bへ肉厚dが 体3の巾方向薄肉側端2A端面には突条4が、 又、厚肉側端2B端面には、第2図に示すよう

に、突条4と本実状の雌雄関係をなす凹溝5が形 成され、一方、長さ方向一端6人の表面3人側部 に前配中空孔 1…1 に至らない深さTの断面L字 状の切り欠き7が設けられ、長さ方向他端部8B 状延出部8が形成され、前配凹溝5及び前記切り 欠き部7には弾性を有する防水材9が設けられて 構成されている。

上記実施例において、建築用板Aの耐水性を付 水紙10を一体に貼り付けた構成としても良い。

そして、この考案の建築用板Aを用い、例えば 外装壁面を構成する場合、第2図あるいは第3図 に示すように、上下方向には突条4と凹溝5とを 状延出部8とを合抉状に嵌合させつつ接合してい くのである。

尚、第3図において、11は胴縁又は間柱、1 2は釘又はピスなどの固定具である。

実状に嵌合する凹溝 5 によつてかくされ、外観が 良くなり、又、本実状嵌合により上下方向に流下 する雨水などの浸入が確実に防止され、又、長さ 方向端の接合部は建築用板Aが下方に至るほどテ 部とされていることより、合抉状に接合した部分

に侵入した雨水Rも下方へ流下して、下位の壁板 表面に流出してしまい、壁板裏面3B方向へと浸 入していくことがないのである。

又、接合時には、弾性を有する防水材 8 が圧縮 には前記L字状切り欠き7と合抉状に嵌合する庇 5 されるから、これによつても接合部が完全にシー ルされ、ジョイナー材を使用しなくても完全な防 水性が得られる。

この考案は以上のように断面形状を下方に至る ほど肉厚とし、かつ、巾方向端を本実状嵌合、長 与するため、第4図に示すように、裏面3日に防 10 さ方向端を合抉嵌合により接合し得る構成とした から、これら形状的組み合わせにより合理的に防 水が行われる上に、各接合部には弾性防水材料を 介揮する構成としたから、きわめて良好な防水性 を発揮し得、しかもジョイナー材を使用すること 本実状に嵌合させ、長さ方向には切り欠き7と庇 15 なく接合していくことができるので、施工も容易 であるなど種々の実用的効果を有する。

図面の簡単な説明

第1図はこの考案の実施例の斜視図、第2図は 実施例の使用状態を示す糾視図、第3図は第2図 このとき、釘又はピスなどの固定具 1 2 は、本 20 のⅢ — Ⅲ線断面図、第 4 図は他の実施例の断面図 である。

A······建築用板、1······中空孔、2 A······巾方 向一端、2B……巾方向他端、3……無機質製板 体、4······突条、5······凹溝、6 A······長さ方向 ーパ状に厚くされていること、及び合抉状の接合 25 一端、6 B……長さ方向他端、7……切り欠き、 8 …… 庇伏延出部、9 …… 防水材。





